

議 事 録

会議名称	第3回小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定アドバイザリーボード
日 時	令和6年9月17日(火) 16時～18時
場 所	小松市役所4階403会議室、オンライン
出席者	<p style="text-align: right;">(敬称略・順不同)</p> <p>アドバイザー2名 野末 俊比古氏 (青山学院大学教育人間科学部長・教授) ※オンライン参加 杓谷 茂樹氏 (公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科長・教授)</p> <p>事務局 (市長公室未来型図書館づくり推進チーム) 横山、高橋、竹内、中山</p> <p>支援業務受託者 (アカデミック・リソース・ガイド株式会社、株式会社日本総合研究所 (以下「JV」)) 李、有尾、江頭 ※オンライン参加</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本計画の策定について (図書館・博物館機能を中心に) 2. 第1回リビングラボオンライン開催報告及び第2回リビングラボ開催速報 3. 第3回リビングラボ企画案について
配布資料	<p>【資料1】複合施設機能の概要 図書館機能「知の集積」</p> <p>【資料1-2】基本計画の図書館機能に係るアドバイザーのコメント及び回答</p> <p>【資料2】複合施設機能の概要 博物館機能「地域の歴史文化の集積・編集」</p> <p>【資料3】第1回リビングラボオンライン開催報告</p> <p>【資料4】第2回リビングラボ開催速報</p> <p>【資料5】第2回リビングラボ (オンライン開催) について</p> <p>【資料6】第3回リビングラボ企画案について</p>

<会議内容は下記のとおり>

1. 議事

(1) 基本計画の策定について（図書館・博物館機能を中心に）

資料1、資料1—2に基づき、J Vより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

J V 李	資料については先般お送りし、アドバイザーのみなさまにご確認をいただいている。現状は決定内容ではなく、ご意見をいただいた内容を受けて内部でも検討し更新していくものになる。全体として基本計画にまとめるにあたり、調整・編集が図られていくものであることを留意いただきたい。
杓谷氏	記載いただいている「生態系」という言葉は、常に様々なものが絡まり合い、ダイナミックに物事をつくっていくかたちとして、まさに未来型であるという印象があり、非常に良いのではないかと思う。
野末氏	全体として、図はできるだけシンプルに、テキストはキャッチフレーズのように一見してどのようなものであるかがわかるようなかたちにブラッシュアップしていく必要があるのではないか。市民の参画を掲げる本事業において、今後わかりやすさの工夫が必要になるだろう。
杓谷氏	未来型図書館は、小松市民のための施設であることが非常に重要であると思っている。未来型図書館は市民を十分に巻き込み、市民がまちを愛する大元の存在になっていくことを目指していく必要があるのではないか。
J V 李	リビングラボで市民からもそのような意見は出てきている。「シビックプライド」という言葉を使用していくかは今後の検討だが、意味あいとしては計画に盛り込んでいきたいと思う。
野末氏	何をいつまでに決めるのかという見通しが必要になってくるのではないかと思う。何をどの段階で、どこまで決めるのかを共有しておけると、いま議論すべきことに特化できるのではないか。基本計画のイメージとしての事例などがあれば共有しておけると良いのではないか。
J V 李	検討の見通しについては、各機能のなかに進め方を記載していくかたちにしていきたいと思う。事例については、部分的に参照しているものはあるが、現状そのものが参考になるような事例は見つかっていない。継続してリサーチは進めていきたいと思う。
事務局 横山	基本計画の策定スケジュールは、事業の全体感を抑えたうえでのスケジュールとして進めていく必要がある。また、蔵書計画の位置づけについても、未来型図書館単体の範囲だけでなく、分館である南部図書館や空とこども絵本館も含めた蔵書計画も視野に入れ、それらも抑えた検討が必要であると考えている。
野末氏	「小松らしさ」や「未来型」とは何かについて、議論・集約をしていく必要があるのではないかと考えている。

事務局 横山	「未来型」とは何かについては、どこかで定義（概念）を固めていく必要がある。現段階では施設の名称を「未来型図書館等複合施設」としてしているが、施設の特性をどのようにわかりやすく伝えていくかについても検討していく必要があると考えている。
JV 李	基本計画の内容として検討していく側面と、ネーミングや愛称として施設の特性を表現していくという側面があるかと思う。両面とも意識して進めていきたい。

資料2に基づき、JVより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

杓谷氏	これからの博物館という意味で、本資料で5つの方向性が示されたが、未来型の施設をつくる際に、これらの方向性を超えたところにもう一つの方向性が見いだされてくる必要があるのではないかと。 “つくる” や “創造” するという営みをよく意識していきたい。
杓谷氏	小松市という地域は石の文化が中心になっている。小松は日本のなかで世界へ接続する非常に重要な拠点だったという歴史がある。弥生時代から遺跡等、石にまつわる多様な歴史があるが、市民にそこまで関心が寄せられていない現状がある。ストーリーとして、石の文化という大きな幹があり、そこから歴史・文化が派生していくイメージを表現していけると良いのではないかと。
事務局 横山	石の文化については、小松駅高架下の観光交流センターにおいても石の文化を中心とした展示整備がなされている。市全体として、どこで何にフォーカスしていくのかといった整理も必要であると考えている。芦城公園にはかつて小松城があり、芦城公園から小松駅前へと広がる城下町には町人文化が華開いたという側面も踏まえていく必要がある。
杓谷氏	資料収集においては、市民学芸員や市民研究員等の収集の目を持った人たちを巻き込んでいくとより豊かなものになっていくだろう。
杓谷氏	収蔵庫の話があまり出てきていないが、博物館において収蔵庫は非常に重要である。博物館館長とも相談しながらもう少し内容を記載しても良いのではないかと感じた。収蔵庫は必ずしも未来型図書館の建物内に含める必要はなく、「十分な収蔵庫を確保する」という記載で意思を示すことが出来れば問題ないのではないかと。
野末氏	図書館と博物館共通して検討していくべきこと、別で検討していくべきことがあるかと思うので、整理のうえ記載を検討していく必要があると思う。
野末氏	市民学芸員や市民研究員についてはこの事業全体に関わるような、大きな話なのではないかと思う。市民協働を掲げてリビングラボを回していくことがこの未来型図書館の柱であると大きく打ち出していても良いのではないかと。

野末氏	<p>収蔵庫や閉架書庫も含め、今年度どこまで具体的に決めていくべきなのかを明らかにしておけると良いのではないかと思います。</p>
事務局 高橋	<p>基本計画を策定するにあたって様々な方向性を定めていくことになる。今後参画を検討している事業者が、本事業でこういった施設を整備していくかがわかるよう、要求水準書に落とし込める程度の粒度で基本計画にまとめていく必要があるのではないかと考えている。また、「共創」の役割についても重視し、具体的な方向性を打ち出していく必要があるのではないかと考えている。</p> <p>また、議会を見据えながら今後も検討を進めていくが、12月議会には規模だけではなく、管理運営の方向性を示していく必要があると思っている。あわせて事業手法の考え方も整理していく必要がある。それらの方向性や考え方については、リビングラボを通じて市民のみなさんにも検討の進捗状況を伝えていきたいと考えている。</p>
事務局 横山	<p>先日（9月12日実施）のアドバイザリーボードでも指摘があったが、未来型図書館での様々な活動を想定しているなかで、誰がそれを担っていくのか、どのように市民が参画していくのかという点については、まだ明確な解がないため、検討を深めていく必要があると考えている。</p>
野末氏	<p>公共の役割の一つは地域の資料や情報、知を残すことである。その一つの手段がアーカイブになるので、強調しすぎてもしすぎることはないと考えている。ただし、市民学芸員の話にも通じるが、資料や情報をどのように集めてどのように活用していくのかというアーカイブの前と後の部分をより書き込んで良いのではないかと考えている。</p>
事務局 横山	<p>図書館における電子図書館の機能と博物館におけるデジタルアーカイブ機能は、基本的には別に組み立てられるものか。</p>
J V 李	<p>基本的には別物である。現状基本となっているバンダーからパッケージを購入するというかたちでは一緒にはならないものと認識している。デジタルアーカイブはオープン化やカスタムが可能等の動きがより加速し、より生態系的なものに発展していく可能性が高い。一方で、電子書籍はビジネスにおける権利の関係でハードルが高い事情がある。ただし、電子書籍を自らつくる取り組みを行っている自治体もある。</p>
野末氏	<p>図書館における電子図書館の機能と博物館におけるデジタルアーカイブ機能では異なるものになっているのが基本だが、少しずつ統合していく取り組みを始めている自治体もある。統合されていたほうが効果的な部分もあるため、そうした方向性も見据えてオープン化にも取り組んでいく必要があるのではないかと。オープン化して共有していくということはこれからの考え方の主流になっていくことを基本計画に記載しても良いのではないかと思います。</p>
事務局 横山	<p>博物館の展示について、常設展は、一度来館して満足してしまう側面が強く、継続的な利用に難しさがあるという印象があり、常に企画展を行っていくようなかたちを検討していくべきか。</p>

杓谷氏	常設展もあっても良いかと思うが、学芸員や司書等の専門家が下支えをしつつ企画展自体を市民が主体的につくっていくようなものを年に1回程度実施するようなサイクルをつくっていけると良いのではないかと。
J V 李	常設展と企画展を実施していく旨を記載した意図としては、現在の博物館は収蔵する資料の点数も多く、企画展だけで回していくことは困難なのではないかと考えたためである。美術館などには企画展だけで回している施設もあるが、そうした施設は民間の力をうまく生かしている。小松市の学芸員のみなさんは博物館の基本的な業務を丁寧に取り組んでいるので、市側が博物館業務を主として担うのであれば、常設展も想定しておく必要があるのではないかと考えている。未来型図書館は、図書館と博物館が入る施設になるので、同じ常設展だとしてもライブラリーと合わせキュレーションをしっかりと行うことで、魅力的な展示をつくっていける可能性はあるかと思う。市民司書と市民学芸員と一緒に考えることで常設展でも飽きられない工夫が必要かと思う。
杓谷氏	先日の第3回リビングラボでまちぐるみで取り組むという企画を提案した。市民対話から企画をかたちにしていくあり方は、今後より加速していくのではないかと思う。学芸員だけでは生まれない発想もあるはずなので、市民と一緒に考えていけると良いのではないかと思う。

(2) 第1回リビングラボオンライン開催報告及び第2回リビングラボ開催速報

資料3に基づき、J Vより説明。

※特に質疑・意見なし。

資料4に基づき、J Vより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

野末氏	慣れている人と初めての方が良いバランスで混ざったかたちになり、ワークとしてはやや難しい内容だったがうまく進んでいったと感じた。また、他のグループに見に行くアクションは非常に良かったと感じた。フィードバックをもらえるというのは嬉しい体験になるため、今後も盛り込んでいけると良い。
杓谷氏	もう少し時間が欲しいくらいであったというのが素直な感想だった。市外・県外の方もグループメンバーにあり、こうした取り組みが市外にも知られていることに嬉しく感じた。

資料5に基づき、J Vより説明。

事務局 中山	現在10名弱の申し込みがある。リアル開催で参加された方やリビングラボ自体が初参加の方もおり、参加者のみなさんと楽しく開催できたらと思っている。
-----------	---

(3) 第3回リビングラボ企画案について

資料6に基づき、事務局JVより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

野末氏	「基本計画策定に向けた検討状況について」は、ショートレクチャーの冒頭に変更したほうが良い。また、ワークについては、最初に施設全体を考えるのは難しいのではないか。
JV 李	全体はあくまでも検討の入口であり、これまで検討してきたものが、塊として空間に現れてきたらどのようになるかを検討いただくことになる。今回はグループワークでこれまで以上にファシリテーションでサポートしながら進めていくことになるだろう。
野末氏	今回はより様々な意見が出てくるのではないかと思う。ファシリテーションでの整理は必要になるだろうが、出来るだけ市民のみなさんの意見は拾えるかたちにしていきたい。また、ショートレクチャーについては、書架の形態や机の形状、音のコントロールのような関係性から、教室やデパートなどの空間の具体例を挙げながらお話していきたいと思う。
杓谷氏	第4回リビングラボのテーマに公園が設定されているが、芦城公園との関係性は今回の検討範囲に含まれるか。
JV 李	今回はあくまでも建築を起点とした屋外との関係性の検討のイメージになり、次回のリビングラボでは、より広範な検討を行うことになる。
杓谷氏	空間の検討としては縦の関係性として考えていけると良いのではないかと感じた。

次回、第4回アドバイザリーボードは11月に開催予定。

以上